

【第二部】 記念講演 ： 建築会館ホール

連続繊維補強技術の開発・発展の歴史を踏まえ、これからの展開・活用を考える記念講演を、以下の講師により予定しています。会員他協会関係者以外の一般の方々にも公開いたします。

※一般の方々は、下記申込書にご記入いただき、FAX にてお申込み下さい。

● 東京理科大学名誉教授

マツザキ ヤスヒロ

松崎 育弘 氏

演題【「連続繊維補強コンクリート系建造物の設計・施工」について、
私なりに振り返り、思ったこと】

炭素繊維やアラミド繊維といった新素材を、棒状の連続繊維補強材として鉄筋代替材に利用しようとする研究は、1990年代に入りシート状連続繊維の利用へと展開しました。1995年に発生した阪神淡路大震災を契機に、これまで蓄積された研究成果をもとにして、既存建築物の耐震改修促進の一役を担ってきました。この間、各種の設計・施工指針類が取りまとめられ、既に完成された技術としての位置にあります。研究開発の過程を振り返り、今またこれら技術を見直す余地を考えてみたいと思います。

講師プロフィール

RC造建築物の耐震構造分野での第一人者。新築だけでなく既存建築物耐震補強技術分野においても、あと施工アンカーや連続繊維補強において、日本建築学会及び日本建築防災協会はじめ多数の団体で輝かしい功績を残されています。現在も各所において既存建造物の評価、耐震診断改修計画評価等に携われ建築物の構造安全性をご指導されているほか、一般社団法人 繊維補修補強協会試験問題作成委員長として協会事業をご支援いただいています。

● 筑波大学 システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻 教授

カナクボ トシユキ

金久保 利之 氏

演題【連続繊維による建造物補強への期待と国際標準化】

高比強度、高耐久性に特長付けられる連続繊維補強材は、シートを代表として、靱性補強型の耐震補強工法として活用されていますが、日本国内では、既存不適格建物の耐震改修が一段落し、次の利用を考える時期にきています。国内では、ライフサイクルを考えた非腐食の高耐久材としての利用、国外では、BRICsなどの経済発展の著しい地域での新たな耐震補強などでの利用が考えられます。技術的な側面、関連する国際規格の開発などについて話題を提供します。

講師プロフィール

建築構造、材料及び維持管理の分野で活躍中の研究者。コンクリート建造物の耐久性能や繊維補強セメント、FRPなどの複合材料等の分野で多数の論文発表をされ評価を受けています。連続繊維補強材料に関して、現在日本が幹事国となっているISO/TC71 SC6で国際幹事を務め世界標準化を推進されているほか、日本建築学会、日本コンクリート工学会、日本化学繊維協会等の委員として活躍されています。

一般社団法人 繊維補修補強協会 宛

FAX 03-3453-8008

一般社団法人 繊維補修補強協会

設立 20 周年記念行事 記念講演 聴講申込用紙

(2018 年 11 月 20 日 (火) 15:00~17:00 建築会館ホール)

本申し込み用紙は、協会会員以外の一般の方がご利用下さい。

協会会員所属の方は、会員窓口担当者を通じてお申し込み下さい。

予定定員は、200 名です。定員を超えた場合は、お申し込みを受理できない場合もありますのでご承知おきください。

以下にご記入のうえ FAX にてお申し込み下さい。(受理後協会より FAX にて返信)

お申込み日 2018 年

ご氏名 _____

ご所属・お役職 _____

連絡先住所 _____

TEL _____ / FAX _____

E-mail _____

一般社団法人 繊維補修補強協会

記念講演聴講申込受理連絡

聴講番号 _____

講演は 15:00 開始予定、受付開始 14:30 予定です。

本書を当日、会場受付（一般聴講者受付）にお示し下さい。